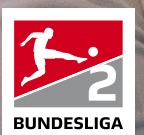


2022.3 / Vol. 51 / Soccer Journal



フォルトゥナ通信

FORTUNA AKTUELL - Japanese Version





青を灯せ。



www.toyo.de



**TOYO
TIRES**

フォルトゥナファンの皆様へ

Liebe Freunde von Fortuna Düsseldorf



フォルトゥナ・デュッセルドルフ 会長
アレキサンダー・ヨブスト

Fortuna Düsseldorf
Vorstandsvorsitzender
Alexander Jobst

Impressum

>>フォルトゥナ通信<<
Ringer Broich 87
40235 Düsseldorf

Herausgeber 発行元:
Fortuna Düsseldorf 1895 e.V.

Leitung 情報管理:
Kai Niemann (medien@f95.de)

Redaktion 編集:
Taiki Hirooka 廣岡太貴
(japandesk@f95.de)

Fotos 写真:
Christof Wolff
Thorsten Schmidt
IMAGO / Moritz Müller
IMAGO / Ulrich Hufnagel
公益財団法人日本サッカー協会 ©JFA
Getty Images
F95

Layout レイアウト:
Christian Lewandowski

フォルトゥナ・デュッセルドルフの新会長として、皆さんにご挨拶できることを嬉しく思います。私は2月初旬に就任し、最初の記者会見で“クラブの一員になること”を目標にすると述べましたが、フォルトゥナの日本コミュニティはすでに何年も前から我々クラブの一員となっています。皆さんの情熱はフォルトゥナにとって非常に重要な要素であり、私は皆さんにファンやサポーターとして我々の仲間に加わっていただいたことを誇りに思っています。また、すでに私は熱心な日本デスクのスタッフを通して、日本コミュニティと多くの伝統的なアクションがあることを知りました。日本人学校でのフォルトゥナ授業、似顔絵サインカード、アリーナ見学、また大規模な日本デー、そしてツイッターでのたくさんの反響など、皆さんのフォルトゥナに対する関心や熱意は本当に素晴らしいものです。

我々は再びスタジアムに多くの観客を動員することが可能になったこと、そしてまた素晴らしい雰囲気に戻ってきたことを非常に嬉しく思っています。ホームで行われたハンブルガーSV戦では、我々がなぜサッカーを、そしてフォルトゥナを愛してやまないのかを改めて体感することができました。スタンドからの熱気とピッチ上のパワーがひとつになり、心がとても熱くなりました。だからこそ、私は今後のホームゲームにも更に多くの日本人ファンの皆さんが足を運んでくれること、そして個人的に皆さんと知り合えることをとても楽しみにしています。

それではまたアリーナ、もしくはインマーマン通りでお会いしましょう。



新加入

NEUZUGÄNGE

Daniel Ginczek

名前:ダニエル・ギンチェク
 ポジション:センターフォワード
 背番号:10
 国籍:ドイツ
 前所属クラブ:VfLヴォルフスブルグ
 特徴:高い得点能力と豊富な経験を兼ね備える大型センターフォワード

「100%以上の力で戦います。自分の年齢と経験を活かし、そして何よりピッチの上で存在感を見せ、できるだけ多くの得点を挙げて、下位からの脱出に貢献したいと思っています」

Jordy de Wijs

名前:ジョルディ・デ・ヴィス
 ポジション:センターバック
 背番号:30
 国籍:オランダ
 前所属クラブ:クイーンズ・パーク・レンジャーズ
 特徴:強靱な身体を活かした対人の強さに加え、ビルドアップに優れた技術を持つ左利きセンターバック

「イングランドのリーグは非常にタフなので、ドイツ2部は私に合っていると思います。チームとクラブのために自分の力を発揮したいです。このチームなら間違いなく再び上位を狙えると思います」

Nicolas Gavory

名前:ニコラス・ガボリー
 ポジション:左サイドバック
 背番号:34
 国籍:フランス
 前所属クラブ:スタンダー・リージュ
 特徴:クロスの精度が高く、攻守の両面においてアグレッシブな左利きサイドバック

「ドイツのビッグクラブと契約できたことを非常に嬉しく思います。私にとってはさらに自分を高めるための良いステップです。自分の経験を活かし、チームの力になれることを楽しみにしています」



ダニエル・ ティウネ監督

Daniel Thioune



2022年2月8日、連敗が続いていた状況にクラブがついに決断。これにより、クリスティアン・プロイサー監督に代わり、ダニエル・ティウネ監督がフォルトウナの指揮官に就任した。ティウネ監督は昨シーズン、ハンブルガーSVで第31節まで監督を務めていただけでなく、その前にはVfLオスナブリュックでブンデスリーガ2部に昇格を果たし、クラブをリーグに残留させた経験を持つ。ニーダーザクセン州出身のティウネ監督は、自身もVfLオスナブリュック、VfBリューベック、LRアーレンでストライカーとしてプレーした経験を持ち、選手キャリアを終えた後、まずはユースやアシスタントコーチとして活動し、2017年にオスナブリュックの指揮官に就任していた。



「フォルトウナのような伝統あるクラブでのやりがいのある仕事はとても魅力的で、大きなエネルギーを持ってこの仕事に臨みたいと思います。チームは下位から抜け出すのに十分なポテンシャルを持っています。このポテンシャルをピッチで発揮することがこれからの課題です。私はコーチ陣やチームスタッフ全員と一緒に、必ず成功できると確信しています」



試合結果



**SC
PADERBORN**
07 e.V.

9節
2:3
(1:1) H



10節
1:1
(1:0) A



KSC

11節
3:1
(1:1) H



12節
2:1
(1:0) A



H ホーム
A アウェー



1. FUSSBALLCLUB
HEIDENHEIM 1846



試合結果



H 18節
0:1
(0:1)



A 19節
3:0
(0:0)

H 20節
0:1
(0:1)



H 22節
2:1
(0:1)

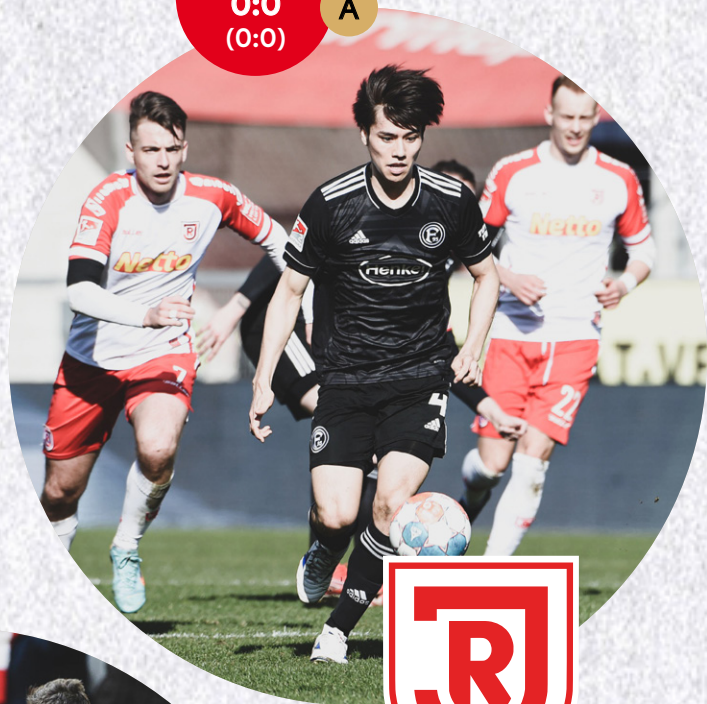
A 21節
1:0
(0:0)





23節
3:1
(1:0) H

24節
0:0
(0:0) A



H
25節
3:0
(2:0)



SC
PADERBORN
07 e.V.



A
26節
1:1
(0:1)

27節
1:1
(0:0) H







AO TANAKA |





Henkel

DANIEL GINCZEK

選手インタビュー

ダニエル・ギンチェク

冬の移籍期間、フォルトウナ・デュッセルドルフはVfLヴォルフスブルグからセンターフォワードのダニエル・ギンチェクを獲得。“ギニー”ことギンチェクは、これまでにブンデスリーガ1部の数多くのチームでプレーし、ヨーロッパリーグやチャンピオンズリーグにも出場したことがある経験豊富な選手だ。そして今回、そんなフォルトウナで背番号10を背負うストライカーがインタビューに応じ、フォルトウナに移籍することを決めた理由や移籍してからこれまでの3ヶ月間、また“日本”というテーマについても色々語ってくれた。

ギニー、フォルトウナへようこそ！まず、デュッセルドルフへの移籍を決めた理由を教えてください。

フォルトウナには数年前から好印象を持っていましたし、一緒にプレーしたことのある選手たちも多く所属しています。それに、選手としてのキャリアを終えた後、家族と共にデュッセルドルフで暮らしていこうと決めたことも大きな理由の一つです。それ以外の条件も上手くマッチしたので、このクラブに移籍することを決めました。

ギニーは長い間ブンデスリーガ1部でプレーしていたけど、ブンデスリーガ1部と2部の大きな違いは何か？

1部は人というよりもゾーンで守備をするチームが多いので、2部よりもスペースがありますし、プレーのスピード感が違います。また、1部では2部よりもミスが直接失点に繋がってしまうという部分もありますね。

デュッセルドルフに移籍して来てから、監督交代やクラブ首脳陣の交代、またチーム内でのクラスターなど多くのことが起こったよね。フォルトウナに来てからの3ヶ月間を少し振り返ってみてくれる？

非常に躍動的でしたね。私がここに来た最初の週に6、7人がチームを去り、新しく5、6人の選手やスタッフが入ってきました。それから監督が交代となりました。私個人としては、短い期間ながらクリスティアン・プロイサー監督とは良い関係性だったので残念でしたが、ダニエル・ティウネ監督が新たな勢いをもたらし、今はチームとして良いパフォーマンスを発揮しており、非常に重要な勝ち点を獲得できています。その中でもハイライトはHSVとのホームゲームだったと思いま

す。また多くの観客の前で試合ができたこと、Ultras（熱狂的なファン団体）が再びスタジアムに戻ってきたことで、何のためにサッカーをするのかという理由がそこにありました。

今シーズンも残すところ後約2ヶ月となったけど、今季残りの期間での個人的な目標を教えてください。

できるだけ多くの勝ち点を獲得して、チーム、そしてクラブとしてベストな順位でシーズンを終えることです。私個人としては得点を挙げることで、そして健康でプレーすることです。それができれば、結果は自然とついてくると思います。

移籍後のインタビューで、1年ほど前にデュッセルドルフに住居を購入して、ここに家族と共に住んでいると言っていたけど、すでにデュッセルドルフは自身の故郷になってる？

元々西ドイツは私の故郷でしたが、ここ数ヶ月や数年は代表ウィークなどにはデュッセルドルフの家で過ごしていましたし、私の妻はデュッセルドルフに住んでいました。だからこそ、デュッセルドルフはよく知っているもので、短い期間ではありますけど、すでに故郷になっていると言えますね。

“日本”という言葉聞いて、まず思い浮かぶことは何？

“東京”ですね。大きな街ですし、一度行ってみたいと思っています。これまでに多くの日本人選手と一緒にプレーしてきましたが、みんな親切で思いやりのある選手ばかりだったので、私は日本人の選手や人々が大好きです。だからこそ、いつか必ず日本に行きたいと思っています。

ここ3ヶ月間、真大や碧とプレーしているけど、これまでに一緒にプレーしたことがある日本人選手を教えてください。また、日本人選手に対する印象は？

碧と真大の他には、香川、細貝、長谷部、乾、清武とプレーしたことがあります。日本人はみんな素晴らしい技術を持っていますね。それに、彼らの性格や常に全力を尽くすところ、規則正しい部分などはチームにとっても良い影響を与えます。特にドイツの中で一番日本人が住んでいるこの街で、彼らの活躍は非常に喜ばしいものだと思います。

デュッセルドルフの日本コミュニティーを知ってる？日本食は好き？

寿司は大好きです。家の近くにレストランがあるので、よくそこで寿司を注文していますし、日本食は好んで食べますね。日本コミュニティーに関しては、デュッセルドルフで私のJunggesellenabschied（結婚前に行うパーティー）を行ったのがたまたま日本デーが開催されている期間で、街中が仮装・コスプレをした人々や日本人の人たちでいっぱいになっていたのを見て、初めてデュッセルドルフの日本コミュニティーの大きさに気づきました。

最後に日本人のフォルトウナファンに一言

日本人のファンや外国のファンがいてくれることをとても嬉しく思います。我々も皆さんに素晴らしい試合を見せられるように頑張ります。デュッセルドルフには大きな日本コミュニティーがあるので、多くの日本人ファンがスタジアムに足を運んでくれることを願っています！

3

日本人3人が同時出場
フォルトウナ史上初



スタメン

- 33 KASTENMEIER
- 4 田中
- 6 PRIB
- 7 HARTHERZ
- 8 PIOTROWSKI
- 19 IYOHA
- 20 NAREY
- 23 アペルカンプ
- 41 内野
- 42 KÖTHER
- 46 OBERDORF

控え選手: 1 WOLF、15 EISELE、
35 BUNK、36 TOUGLO、38 LOVREN、
43 MANSFELD、48 SIEBEN



ブンデスリーガ2部の第26節、フォルトウナはチーム内でクラスターが発生したことにより、U23から6人、U19から1人の選手をトップチームに補充してSCパーダーボルンとのアウェー戦に臨んだ。フォルトウナはこのような状況でもチーム一丸となって戦い、Paderbornに1-1の引き分けで貴重な勝ち点1を獲得。そしてこの一戦には、この日キャプテンを務めたアペルカンプ真大、中盤の要である田中碧、そしてU23チーム所属でプロデビューを飾った内野貴史の日本人3人が同時出場。フォルトウナで日本人3人が同時にピッチに立ったのは、これがクラブ史上初のこととなった。

ドイツ・ブンデスリーガで日本人3人が同じチームで同時にピッチに立つということは、そう頻繁にあることではない。おそらく2016年にHannover 96で清武弘嗣、山口蛍、酒井宏樹の3人が同時出場した以来のことで、その前には前例のないことだろう。これに関して、アペルカンプも「日本人3人が同時に出場できたのは嬉しいです。歴史に残りますね」と喜びを口にしていた。





21歳にしてキャプテンを務めた アペルキャンプ真大

今シーズン第26節となったパーダーボルン戦、21歳にしてブンデスリーガの伝統クラブであるフォルトウナ・デュッセルドルフのキャプテンを任されたアペルキャンプ真大は、試合後、このことについて「選手協議会のメンバーがみんなコロナでいなかったの、自分の中では少し予想してましたけど、実際に試合前日のミーティングで監督から“明日は真大が21歳の若さでキャプテンとして公式戦に臨むけど、これは非常に特別なことだ”と言われたときは本当にドキドキしました。だけど嬉しかったです」とその時の心境を語り、続けて「この1週間は試合に向けていつも通りの準備ができなくて大変でしたけど、そんな中でU23やU19の選手を含め”自分たちには何も失うものはない”、“チーム一丸となって戦う”というのが一番重要でした。今日はキャプテンを務めましたが、試合に入ってからキャプテンということあまり考え過ぎず、いつも通りに自分のプレーをしました。勝利まで後少しだったので本当に悔しいですが、最後の最後まで何が起こるかわからない、これがブンデスリーガ2部です」と自身の経験から2部リーグの厳しさを強調していた。

ブンデスリーガでは、フランクフルトの長谷部やシュトゥットガルトの遠藤のように日本人がキャプテンを務めるチームもあるが、今回アペルキャンプは21歳の若さにしてチームでこの重要な役割を任さ

れた。その理由はどこにあるのだろうか。実はアペルキャンプは、フォルトウナのU17チーム、U19チーム、U23チームでもキャプテンや選手協議会のメンバーとして、チームで重要な役割を担っていた。そこで、なぜアペルキャンプがどのカテゴリーでも重要な役割を与えられていたのかについて、今もフォルトウナに所属している当時の監督たちに話を聞いたところ、興味深いことを聞かせてくれた。





U17、Samir Sisic
ザミア・ジジッチ監督

「真大はU17チームに所属していた頃から攻撃面で高い能力を発揮していましたが、彼は主に攻撃の起点となる選手で、ゴールに繋がる2つ前のパスを出していました。もちろんゲームメーカーとしてチームにとって重要な存在だったことは間違いありません。しかし、それではゴールやアシストなど結果として数字に表れません。だからこそ、我々は真大の更なる成長のためにも、彼自身がゴールやアシストを挙げられる選手になるように指導しました。その中で、彼が自分の役割を理解し、さらにチームに対して責任を持ってもらえるよう、キャプテンや副キャプテンを任せていました」



U19、Suker Sinisa
シュカー・ジニサ監督

「当時から真大はチームで最もポテンシャルを持っている選手でしたし、勤勉さや集中力という面において模範的な選手でした。それに加え、常に全力で取り組み、チームのためにプレーできる選手だったのでキャプテンに任命しました。また、キャプテンに任命したのは、彼が持つ卓越した技術や勤勉な日本人の部分を中心にしながらも、ドイツのメンタリティやヨーロッパで戦っていくハードな部分を彼に植え付けたいという狙いもありました。自分のプレーに責任を持つこと、もちろん技術は必要ですが、技術はあくまでも1つのツールです。それをハードな戦いの中でどう活かすのかという部分が、彼が更に成長していく上で必要でした」



U23、Niko Michaty
ニコ・ミチャティ監督

「真大はU19からU23に昇格し、シーズン最初からチームの中心選手として、また選手協議会のメンバーとしてチームで重要な役割を担い、素晴らしいシーズンを送りました。その1年後にはトップチームのメンバーとして活躍しています。真大は声を張り上げてチームを引っ張るようなタイプではないですが、素晴らしいサッカー選手でありながら、模範的な行動やプロフェッショナルな姿勢、学ぶことへの意欲と野心的な部分を持っています。だからこそ、この役割を与えました。今の自分に満足せず、常に上を目指して努力を続けている真大が、パーダーボルン戦でキャプテンマークを巻いてピッチに立った姿を見た時は本当に嬉しかったです」

U21ドイツ代表

UEFA U-21欧州選手権予選



U21ドイツ代表 - U21ラトビア代表 4-0



U21イスラエル代表 - U21ドイツ代表 0-1

日本代表のW杯出場が決定

7大会連続7回目、4年に一度の祭典へ



3月24日、“SAMURAI BLUE”こと日本代表は、オーストラリア代表とのアウェー戦に2-0で勝利を収め、見事カタールW杯への出場権を獲得。そんなアジア最終予選、日本をW杯へ導く鍵となったのがフォルトゥナのMF田中碧の存在だった。2021年10月12日、ホームでのオーストラリア戦、第3戦までに2敗を喫し、追い詰められた状況で迎えたこの一戦、田中がW杯予選デビューを果たすと、代表初ゴールを決める大仕事をやってのけ、2-1での勝利に貢献。その試合から田中は4-3-3システムのインサイドハーフとして日本代表に必要不可欠な存在に。そして、

日本代表は田中が出場するようになってから全勝でW杯へのチケットを掴み取ることに成功した。

田中は、W杯出場を決めたオーストラリア戦後のインタビューで「すごく嬉しいです」と喜びを見せ、続けて「僕は最終予選からしか参加してないですけど、少なからず自分の中でやれることはやったと思いますし、それを見て自分が貢献できたと言ってくれるのは嬉しいです。僕も少しは貢献できたと思いますけど、ワールドカップに出ることが日本サッカー界にとって非常に大事なことは分かっていますし、日本代表が常





に先頭にあると思っているので、ワールドカップ出場を決めることができ、誇りに思いますし、そこに自分がいたことは嬉しいです」とコメント。

自身のプレーについては「良かったところも悪かったところもありますけど、インサイドハーフはゴールだったりアシストだったり結果を求められるポジションではあるので、僕自身もこの試合で点をとって主人公になろうという気持ちで挑みました。まあ、(三笥に)もっていかれてしまいましたけどね(笑)。ただ、そのクオリティは前々から常に言っているように、僕自身のプレーするエリアが比較的低い中で、ボール保持という部分が自分の出る価値だと思っているんですけど、その中で自分が前を向いた時にいかに高いクオリティの仕事ができるのかっていうのはより求めていかなければいけないです。今日あったパスミスに関してはほとんど技術のミスで、見えてなかった訳ではないのでポジティブではありながらも、その精度を更に求めていかなければいけないと思います」と振り返った。

「自分のサッカー人生を振り返ったときに、こうやって最終予選に自分がピッチに立って、ワールドカップのチケットを勝ち取ることができたこと、それに自分が関わることができたことはすごく光栄なことですし、成功と言える部分だと思うので、そこだけは忘れないように自分の心の中にとっておきたいと思います」と田中。

そして、「これからです」と力強く述べた中盤の要は、「W杯という舞台上でトップクラスの相手と試合をしないとイケません。その舞台上で、個人として何もできなければ出ていく価値、自分の価値もなくなってしまいますし、そこで世界のトップの選手たちと何ができるかだと思います。すべての面において、もっとクラブでより自分の力を伸ばす、レベルも上げていかなければいけないと思います。世界のトップの基準をぶらさず、今は僕自身が世界に追いついていないので、その距離を縮められるかどうかです。そこに向けてやっていくしかないと思います」と、まずはクラブでの取り組みが重要になると話し、「代表の活動で結果を残すことが重要で、それが得点やアシス

トなのか、それとは違う部分での貢献度なのか、自分の中でも求めていかなければいけないところです。自分が出た試合でいかに勝利を掴めるかが非常に重要だと思うので、勝利と得点やアシストにはよりこだわりつつ、僕はボランティアなので点を決めれば良いというわけではないので、90分通して自分がどれだけ貢献できるかを、今まで以上に求めないといけないのかなと思います」と結果にこだわる部分も示した。

彼の言葉通り、本当の勝負はこれから始まる。それでも、アジア最終予選で証明した田中碧という選手の価値が、本大会でも日本代表にとって非常に重要な存在になることは間違いないだろう。

内野貴史 ブンデスリーガ2部 デビュー



TAKASHI UCHINO

内野貴史 (21歳)

生年月日: 2001/03/07
身長: 177CM
ポジション: 右サイドDF、中央MF
経歴: ジェフ千葉ユース、デューレンU19、
アレマニア・アーヘン (ドイツ4部)、フォルト
ゥナU23
特徴: サイドを上下する豊富な運動量、
制度の高いクロス



2022年3月12日に行われた今シーズン第26節のSCパーダーボルン戦、フォルトゥナはコロナによる多くの欠場者を出したことで、U23やU19の選手をトップチームに補充し、試合のできる人数16人ギリギリでアウェー戦に臨むことに。しかし、こんな状況の中でもチームは一丸となって戦い、SCパーダーボルンを相手に1-1の引き分けで勝ち点1を獲得することに成功した。そして、このチームの危機的状況の中、ブンデスリーガ2部デビューを飾り、堂々としたプレーで90分フル出場を果たしてチームに大きく貢献したのが、U23チーム所属の内野貴史だった。

内野は試合後のインタビューで、「今日は運良くこういった形で出番が回ってきたので、絶対にこのチャンスをものにしたいという気持ちを持ってピッチに入りました。自分としては簡単なミスもありましたし、まだまだ改善点はたくさんありますけど、この状況で少し

でもチームの力になれたと言う部分では自分のプレーに後悔はないです。初めてのプロデビューでしたし、自分のサッカー人生でこの日を忘れることは絶対にないと思います。これからまたチャンスが訪れるかわからないですけど、今回こういった経験をできたことで得られた自信を次に繋げていきたいです」とコメントしている。

プロデビューを裏で支えた大きな存在

どのような気持ちでプロデビュー戦に臨んだのかについて聞かせてくれた内野は、「前日の夜、ホテルでめちゃくちゃ緊張していましたが、碧くんが僕にどうしたらいいのかとか、自身のデビュー戦のこととか本当に色んな話をしてくれて、それで僕もすごく良いメンタルで試合に臨むことができたんです。あの碧くんの言葉がなかったら、今日のような割り切っ



たプレーはできなかつたと思います。試合中も碧くんが常に僕にアドバイスとか声を掛けてくれて、本当に心強い存在がピッチの上だったので、思い切ってやれました」と自身のプロデビューに大きな支えとなった田中碧の存在について説明。

また、この試合でキャプテンを務めたアペルカンプ真大についても、「真大の存在も大きかったです。真大は同じ年ながらすでにドイツ・ブンデスリーガで多くの経験がありますし、自分と同じでドイツでステップアップしてデビューするという部分もあったので、そんな彼がキャプテンとして同じピッチの上にいるのは本当に大きかったです」と述べ、続けて「試合前に監督から熱い言葉をかけてもらったり、ラファ、エディ、フロー、カレードとか経験のある選手たちが”難しく考えなくていい。お前のいつものプレーをすればいいんだ。俺たちがサポートするから”と声をかけてくれたので、思い切ってプレーすることができました」とチーム全体がサポートしてくれたことも説明した。

試合終了まで約10分、足を攣ってピッチに倒れ込んだシーンについては「正直、60分を過ぎたくらいから本当にキツくて、そこからは自分との戦いでした。やっぱり雰囲気も違いますし、力も入ってたので。ただ、あそこでバツを出して交代するのは簡単でしたけど、今のチームの状況もありますし、90分アグレッシブに走り切るっていう部分が自分の長所でもあるので、あそこでまだいけるかいけないか聞かれた時にいけると答えられたのは、U23チームでも日頃からそういう気持ちでサッカーやっていると証明できたと思います」と内野。

そんな彼の貢献もあり、フォルトウナは危機的状況の中でもチーム一丸となって貴重な勝ち点1を獲得することに成功。支えてくれたチームに感謝し、素晴らしいパフォーマンスでプロデビューを飾り、チームに大きく貢献した内野にまたチャンスが訪れることは間違いなさだろう。

パリ五輪世代のU21日本代表 初招集 & デビュー ドバイカップ U-23制覇

ブンデスリーガ2部デビュー戦での活躍もあり、内野は2024年パリ五輪を目指すU21日本代表が出場するドバイカップ U-23のメンバーに選出された。この大会、内野は第1戦目となるクロアチア戦で後半から出場して日本代表デビューを果たし、1-0での勝利に貢献すると、第2戦目のカタール戦(2-0)にも試合終了間際に途中出場。そして迎えたサウジアラビアとの決勝戦、内野はスタメンに名を連ね、90分フル出場で1-0での勝利に貢献した。これにより、U21日本代表は3連勝でドバイカップ U-23優勝を飾っている。



U21日本代表 - U23クロアチア代表 1-0



U21日本代表 - U23カタール代表 2-0



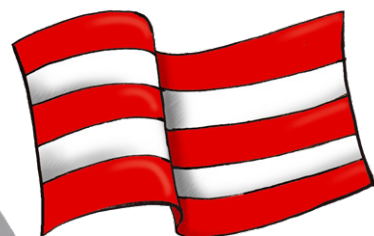
U21日本代表 - U23サウジアラビア代表 1-0

2021/22シーズン 特別ユニフォーム

街とフォルトウナの繋がりを表現

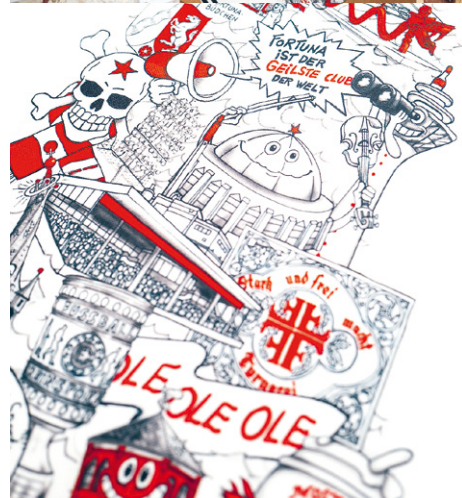
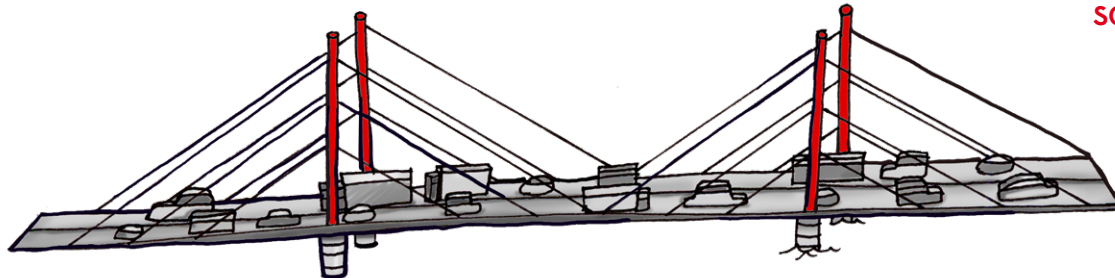
フォルトウナ・デュッセルドルフはアディダスと11teamsportsの協力のもと、フリンガンの伝統クラブとデュッセルドルフの街の密接な関係をエモーショナルに表現した、2021/22シーズンの特別ユニフォーム“ジャックス・ティリー”を発表。このユニフォームは、デュ

ッセルドルフの有名な芸術家であり風刺画家のジャックス・ティリー氏がデザインしたもので、ブンデスリーガ2部の第27節となるホームゲーム、ハンブルガーSV戦で着用された。



JACQUES
TILLY

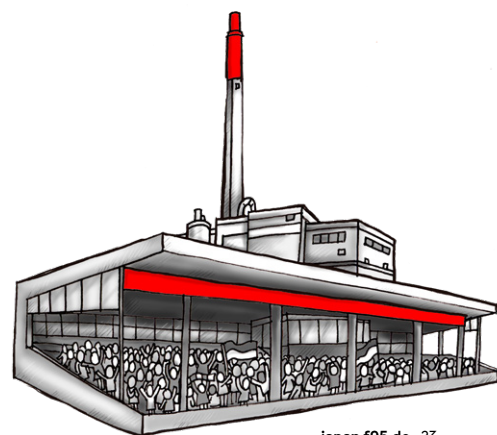
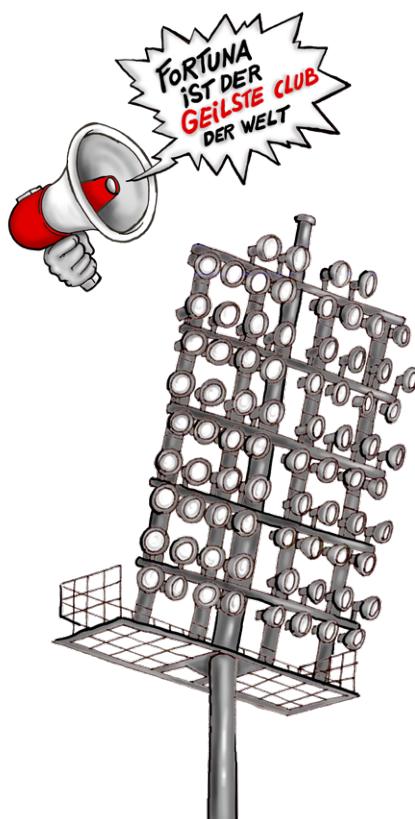




ジャックス・ティリー氏は彫刻家でもあるコミュニケーションデザイナーで、1983年からデュッセルドルフのカーニバルで知られる風刺的なカーニバル山車などもデザインしている。デュッセルドルフ出身のジャックス・ティリー氏はこの街と特別な関係にあり、彼にとってデュッセルドルフは他のどの都市でも経験したことのない幸福感に満ちた故郷である。だからこそ、フォルトゥナは今年の特別ユニフォームのデザインをデュッセルドルフの芸術家とコラボし、ユニフォームのデザインで街の特徴、そして街と伝統クラブの密接な関係を表現している。

ており、メガホンからは”Fortuna ist der geilste Club der Welt (フォルトゥナは世界で最も素晴らしいクラブだ)”という声が聞こえてくる。また、ユニフォームの首元には”1895”の数字とともに市の紋章にも入っている碇のデザインが施されており、細部までこだわった作品となっている。遊び心にあふれ、風刺的で魅力的なジャックス・ティリー氏の典型的なスタイルがここにある。

例えば、ユニフォームにはデュッセルドルフを象徴する有名なもの数々が描かれており、ライン川の流れに沿って、建物とともにフォルトゥナの伝統的なファン文化のシンボルも描かれていたり、聖ランベルトゥス教会、コンサートホール、ライントワーなど、よく見れば見るほど常に新しい繊細なモチーフに気づくことだろう。日本の国旗が入ったマフラーが描かれている事も、フォルトゥナとデュッセルドルフの日本コミュニティとの深い繋がりを表している。パウル・ヤネス・シュタディオンの隣にはデュッセルドルフの有名なマスタードの容器が描かれ



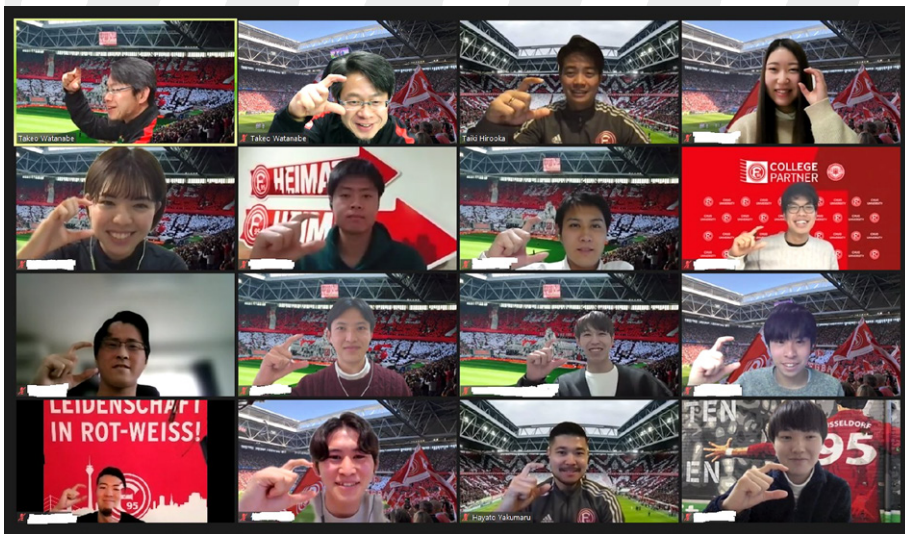
今年も中央大学に向けて オンラインセミナーを実施

フォルトゥナ・デュッセルドルフは2020年、更なる国際化に向けて中央大学とカレッジパートナー契約を締結。このパートナーシップを通じ、本来であれば最大で10人の学生がドイツにて1週間のプログラムに参加し、ブンデスリーガクラブであるフォルトゥナの内部で行われている活動を現場で体験する講座が予定されていたが、未だ続くコロナパンデミックの影響により、今年もオンライン・セミナーという形での開催を余儀なくされることとなった。

このプログラムではクラブのフィロソフィーやマーケティング戦略、チケットング、CSR活動、ファン対応、ユースアカデミーについてなど、サッカークラブの経営における様々なノウハウについての講義を実施しただけでなく、フォルトゥナのパートナーである日系企業の担当者からフォルトゥナを支援する意義や意味を伺う機会が提供された。また、オンラインでの開催を余儀なくされたため、バーチャル・スタジアムツアーという形でビデオによるスタジアムツアーも開催。

そして、6日目となった日曜日には、この研修でクラブのことを学んだ上で日本にて無料放送しているSpooxでフォルトゥナ対FCシヤルケ04の試合を観戦してもらい、その翌日にはサプライズとして田中碧とアペルカンプ真大から学生たちに向けてのメッセージが送られた。

コロナパンデミックにより、残念ながら2年連続でオンラインとはなってしまったものの、2月8日から14日までの1週間で20時間を超える講義やディスカッションを行った研修は、今年も大成功を収めた。



研修後、受講生は「間違いなく自分の人生に大きな影響を与える1週間となった」、「今後の自分のキャリアの選択肢が大きく広がった」、「ますますスポーツビジネスの分野で活躍したくなった。視野が海外に広がった」などの感想を述べてくれた。

この研修に参加した12人の学生たちが、今回のセミナーを通して学んだことを彼らのこれからの活かしてくれることに期待すると共に、来年こそは現地ドイツで研修プログラムが実施できることを心より願っている。



フットサルチームの リーグ残留が決定



フォルトウナのフットサルチームがフットサル・ブンデスリーガ残留という大きな目標を達成。今シーズン第15節、フォルトウナはMCH Futsal Clubビーレフェルトに1-4で敗れたものの、他会場でTSG 1846 マインツがハンブルグのWAKKA Eaglesに0-7で敗戦し、勝ち点5ポイントで最下位となってい

るマインツとフォルトウナの勝ち点差が、今季后2試合を残して7ポイントとなったため、フォルトウナが降格圏内となる9位まで転落する可能性がなくなり、リーグ残留が決定した。なお、債務超過に陥った1894ベルリンは、すでに何週間も前から10位（唯一の自動降格）が確定していた。

その後3試合が残っていたシャヒン・ラシ監督率いるチームは、1分2敗で勝ち点1ポイントを追加し、7位でフィニッシュ。そしてここから、フットサル・ブンデスリーガ初代チャンピオンの座を懸けたチャンピオンシップラウンドに進むこととなる。

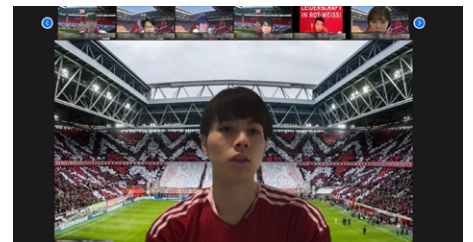
「企業」の経済活動を総合的に学ぶ

中央大学 商学部

中央大学商学部
公式Webサイト



商学とは製品やサービスを生み出す過程とそれらの流通・交換を営む市場の経済の動きを解明する学問です。市場を牽引するのは主に企業ですから、商学では企業の活動を中心に学びます。商学部では4つの学科を通じてビジネスに関わる流通市場の営み、企業活動と管理の仕組み、ビジネスの国際展開、会計情報の作成・活用などを深めています。



『プログラム科目（グローバル・スポーツ・ビジネス・キャリア）』では、2月8日～14日にかけてオンライン研修を実施しました！

経営学科

会計学科

国際マーケティング学科

金融学科

プログラム科目

スポーツ・ビジネスや海外企業へのインターンシップ、地域の課題解決を目的とした商品・サービス開発などに挑戦できるPBL型の講座や、公認会計士やファイナンシャルプランナー等の資格取得を目的とした講義など、将来のキャリア形成に直結する実践的な学修ができるプログラムです。

スポーツ・ビジネス・プログラム

サッカー・ビジネスに関する諸問題を学ぶことで、スポーツ・ビジネスにおいて解決すべき課題を発見し、グループワークで情報収集・分析しながら、課題解決策を立案していくプログラムです。

グローバル・プロフェッショナル・プログラム

多様な価値観、文化、習慣、課題を理解することで、英語や第二外国語の学びを深化させ、語学力を活かして海外インターンシップや国内外の実態調査に積極的に参加します。

ソーシャル・アントレプレナーシップ・プログラム

地域社会が解決すべき課題を適切に特定し、関連する情報を収集し、効果的なビジネス・ソリューションを考案するとともに、課題解決の実現に向けたイノベーションに挑戦します。

アカウント・プログラム

公認会計士などの高度職業会計人を目指す学生のためのプログラムです。授業では基礎から応用、さらに職業会計人として働く上での専門的・実践的な内容についても理解を深めます。

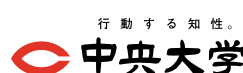
ファイナンシャル・スペシャリスト・プログラム

ファイナンシャル・プランナーや証券アナリストに興味のある学生を対象に、資格試験対策はもとより、経済や企業の分析や資産運用など社会で役立つ専門知識の習得を目指したプログラムです。

プログラム科目の最新情報は専用 Web ページを Check !!



中央大学商学部とフォルトウナ・デュッセルドルフは日本初のカレッジ・パートナーシップを締結しました。



お問い合わせ先：中央大学 商学部事務局
https://www.chuo-u.ac.jp/inquiry/form/?id=7



2021 / 2022
シーズン
新ユニフォーム

SHOP.F95.DE